

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：10105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K05841

研究課題名(和文) GAP導入経営体・産地の段階的発展における課題と市場成立要件

研究課題名(英文) Issues and market requirements for gradual advancement of GAP adopting farmers

研究代表者

宮崎 さと子(窪田さと子) (Miyazaki (Kubota), Satoko)

帯広畜産大学・畜産学部・准教授

研究者番号：90571117

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、日本においてGAPの国際水準化への段階的な発展を支援するため、生産段階における現状の課題と支援策について検討することである。団体認証では、広域であるほど「全経営体」で取組むのが困難であり、ある程度の基準で運用しなければならない。基準の高度化には生産方式の統一、地域の差異を考慮した手順書や記録簿の作成、支部地域との役割分担の必要性が指摘された。また、JGAP認証取得個別経営体では、GAPが生産基盤管理や経営の効率化、交渉力強化に貢献していることが確認された。一方で、GAPの経営効果には数値化が求められること、審査・認証制度や情報伝達の在り方については継続的な検討が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、導入される規格のレベルによって直面する課題が異なることが示されたことである。広域生産が行われる場合、共通認識を持ちながらルールを運用することは難しく、これはGAPも同様である。したがって、初期段階としてある程度の強制力も必要と考えられ、段階的発展の中で地域差を考慮した柔軟な運用方法が模索されていくべきである。また、GAP認証の取得拡大に必要な要件は、費用や労働負担といった課題だけではないことが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine the issues and support measures at the production stage in order to support the gradual advancement of GAP in Japan. In the case of group certification, it was necessary to operate at a lower level because the wider the area, the more difficult it becomes to implement GAP in all households under the same awareness. It was pointed out that in order to advance stage, it is necessary to unify production methods, create procedures and record books that take regional differences into account, and divide roles between branch regions. And also, as results from research for JGAP certified farmers, it was also confirmed that GAP contributes to production base management, management efficiency, and strengthening the bargaining power. On the other hand, it is necessary to quantify the management effects of GAP, and ongoing studies are needed on the audit/certification system and how information should be communicated.

研究分野：畜産衛生経済

キーワード：GAP 高度化 経営効果 団体認証

1. 研究開始当初の背景

GAP (Good Agricultural Practice) は、持続可能な農業を目指すために各工程を食の安全、環境保全、労働安全などの視点から管理していくものである。東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準として注目され、また、輸出拡大戦略を背景に取組が拡大していくと期待されている。さらに、わが国においては、農林水産省が 2010 年に「農業生産工程管理 (GAP) の共通基盤に関するガイドライン」を策定・公表し、国際的な取引にも通用する国際水準 GAP の導入が推進されることとなった。一方で、国際水準 GAP は、要求されている規格のレベルが高い項目もあり、特に共通認識を置かなければならない生産団体における取組は容易ではないとされていた。したがって、国においても段階的な発展を念頭に、国際水準 GAP への移行を目指していた。

他方、市場では GAP に対する認知が消費者、流通業者ともに著しく低く、取組を行う生産者は、GAP 導入が売り上げに直接的に貢献するものではないと認識しつつも、フードシステムの川下の理解醸成を求めている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国において政策的意義の大きい GAP の国際水準化へ向けた段階的発展のため、フードシステムにおける課題とその支援策について検討することである。そこで、研究の学術的な「問い」として、1) 段階的発展における変化の課題を抽出すること、2) GAP 普及のために、生産段階だけでなくフードシステムの川下も含めた包括的な視点で今後の国際水準 GAP 市場を予測すること、を設定した。

3. 研究の方法

(1) 一つ目の課題に接近するために、まずは、地方における団体認証の取組とその課題についてヒアリング調査を基に整理した。一つは、農林水産省ガイドラインに準拠している GAP を導入している団体で、もう一つは、国際水準の食品安全認証を導入している団体である。後者は、GAP ではないものの GFSI (Global Food Safety Initiative) のスキームの一つを導入している団体で、管理方法や生産者の意向は汎用可能と判断した。また、「認証」の継続取得の背景にある要因についてアンケート調査より明らかにした。

(2) 二つ目の課題に接近するために、JGAP 認証取得農家におけるマーケットイン型経営の特徴についてヒアリング調査より明らかにした。さらに、わが国における国際水準 GAP が国際市場でどのように評価されているか、その位置付けを調査することを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、市場での調査は断念し、Zoom を介したヒアリング調査を予備的に行うこととした。以上については、別途再調査計画をたてて進行する予定である。

4. 研究成果

(1) 段階的発展における変化の課題

地域 GAP 団体認証取得における課題

調査対象とした地域 GAP は、大規模な畑作地域において全経営体が参画している事例である。複数の JA を超えた地域単位での取組であり、それゆえに課題も多い。

作物で制限せず、全経営体が日常的に PDCA サイクルの実践を行うことで、経営改善を行うことを目的としていたため、日頃の作業の中での留意点をチェックリスト化して運用されており、他の GAP 認証にあるような個別経営体ごとのリスク評価は実施されていなかった。近年は、チェックリストに評価体制を導入したり、国際基準に近いものに修正していきという動きもあるが、共通の取組としてはある程度限界があることも明らかにされた。一方で、労働の効率化や農作業事故の減少に貢献していることもわかっており、今後の地域 GAP の普及促進のため、農業者によって異なる意向を踏まえた GAP 導入プロセスを整備する必要がある。

国際水準の食品安全団体認証取得における課題

調査対象地域では、JA が主体となり団体認証取得の取組を行っていたが、参画している経営体は当該 JA だけでなく周辺の JA に所属している場合もある。非常に大きな規模で団体認証を取得していた。

広域で国際水準の団体認証を取得するために必要な視点を、以下の三つにまとめる。一つに、認証に対する理解や自発的な姿勢を醸成するために、長期的な視点から体制を構築することである。新しい取り組みに対して消極的な農家には、同じ経営体の立場から利点を示すことも必要である。二つに、地域の差異を考慮した手順書や記録簿の作成を行うことである。多くの経営体に取り組みを行ってもらうために、地域の実情に合った表現方法や形式が求められる。さらに、当生産部会では、認証取得以前から生産方式が統一されていたが、こうしたマニュアルがない場合、各地域に合わせた手順書や記録簿のカスタマイズが必要になり、営農指導員や普及指導員の協力も重要となる。三つに、団体事務局だけでなく、支部となる地域との役割分担を明確にする

ことである。

JGAP 認証取得経営体における認証評価と認証継続意向

JGAP 認証経営体の経営改善効果を検討した代表的な論文として若林・田口(2013)があり、従業員管理の改善に対して、経営主は好意的に評価していることが明らかとなっている。JGAP 家畜・畜産物認証取得経営体における GAP 導入に伴う経営効果および制度的な課題を把握し、今後の制度運営に向けた含意を導出することを目的にアンケート調査を行った。

表には、認証の継続意向(認証を更新したい=積極的、認証の更新を迷っている・更新したくない=消極的)ごとの経営効果についてまとめている。認証の継続取得に関しては、多くの経営体で積極的な移行を有しており(69.0%)、その背景には「販売先への信頼」があることが示された。したがって、市場における GAP の理解は、生産者にとって重要であると言える。また、認証取得経営体からは、GAP 導入の際の労力や費用に対するメリットを求める声が多くあった。一方で、農場管理認証という側面からは、「売上・販路の維持・拡大」といった点だけではなく、経営効率などの経営内部に着目することも重要であり、これらをわかりやすく数値化していくことが必要といえるだろう。さらに、認証継続意向には、審査・認証制度も影響していた。審査時の指摘項目数の負担や畜産現場の実情に合わせた基準書の更新が要求されており、なかでもアニマルウェルフェアの項目で否定的な意見が多い。今後の検討事項として重要であるのは、JGAP 家畜・畜産物認証と農場 HACCP 認証の位置付けである。輸出拡大へ向けて、家畜・畜産物分野で運用できる国際的な規格の整備は重要である。将来的な行動も見据えたものとして、両認証の運用方法について再検討が必要であろう。

(2)GAP 市場の予見

JGAP 認証取得農家におけるマーケットイン型経営の特徴

調査は、実需者・消費者へ直接販売を行う A 社と、複数の農家によるティール組織を設置し、消費者へ直接販売を行う B 社である。1)実需者ニーズの把握方法、2)経営転換に伴うリスクの分散方法、3)経営転換に伴う経営変革の方法の3点の把握をヒアリングより明らかにした。GAPに係る点として、2)において JGAP の導入や経営方針の明確化、HP、SNS 等の用いた情報発信を行い、農業経営の効率化や組織力の強化、実需者との交渉力の強化を図っていること、3)に関しては、生産基盤管理や生産部分における取り組みで、健康な土作りや JGAP の導入を行い、効率的な作業環境の構築を図るといった取り組みが確認出来た。

国際市場における GAP の位置づけ

調査は、台湾とベトナムの食品流通を研究している研究者を対象に行った。

現地においては、食品安全認証に対する消費者の価値評価が高まっており、特にわが国の東京第一原子力発電所の事故を受けて、日本の農産物には認証の取得が求められていることが明らかとなった。一方で、新型コロナウイルス感染症を経て市場の反応も大きく変容している。国内の物流自体が停滞したことを受け、認証には中止されない傾向が出ている。これを受けて、認証ビジネスへも影響が及ぼされる可能性も示唆された。

<引用文献>

若林勝史・田口光弘(2013)「GAP 導入農場における農場管理の実態と経営改善効果」『北海道農業研究センター農業経営研究』109:1-25.

表 認証継続意向別の JGAP 導入に伴う経営

		積極的	消極的	検定
販売面の改善	売上	12.2%	0.0%	
	販路の拡大	31.0%	0.0%	
	販売先への信頼	69.0%	33.3%	**
生産量・品質面の改善	1頭当たりの生産量	23.8%	33.3%	
	品質の向上	29.3%	33.3%	
コスト面の改善	クレーム数の減少	16.7%	33.3%	
	医薬品使用量の減少	9.5%	33.3%	
	家畜の事故率の減少	23.8%	33.3%	
	家畜の死廃率の減少	21.4%	16.7%	
作業・生産管理の改善	生産コストの削減	17.1%	16.7%	
	作業時間の短縮	31.7%	33.3%	
	農作業事故件数の減少	35.7%	33.3%	
従業員管理の改善	作業遅延の減少	28.6%	50.0%	
	生産計画の立てやすさ	38.1%	50.0%	
	従業員の責任感の向上	81.0%	66.7%	
改善	従業員の自主性の向上	78.6%	66.7%	
	従業員間の意思疎通	71.4%	66.7%	

注1) n=48

注2)「経営効果」は「かなり改善・改善・やや改善・変化なし・悪化」の5段階評価であり、マン=ホイットニーのU検定を使用して検定している。

注3) **: p<0.05

注4) 表中の数値は、「かなり改善」「改善」「やや改善」と回答した割合を足したものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 窪田さと子、耕野拓一、奥野亜美	4. 巻 27
2. 論文標題 JGAP家畜・畜産物認証取得経営体による認証評価と制度的課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フードシステム研究	6. 最初と最後の頁 183～188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5874/jfsr.27.4_183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 窪田さと子、耕野拓一、奥野亜美
2. 発表標題 JGAP家畜・畜産物認証の普及に向けた課題
3. 学会等名 2020年度 日本フードシステム学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野洋一、高橋優磨
2. 発表標題 十勝地域の畑作農業におけるマーケットイン型経営の特徴 バリューチェーンモデルの応用による分析
3. 学会等名 2020年度実践総合農学会第15回縮小大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野洋一・窪田さと子
2. 発表標題 大規模畑作地域における地域GAPの推進実態と今後の課題-十勝型GAPを対象に-
3. 学会等名 実践総合農学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	河野 洋一 (Kawano Youichi) (80708404)	帯広畜産大学・畜産学部・准教授 (10105)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------